

誓いの言葉

米沢の厳しい冬も終わり、次第に春の陽気を感じられるようになった今日、米沢市新規採用職員として辞令交付式に参加させていただき、大変光栄に思います。採用通知をいただいた時に感じた大きな喜びは、今でも鮮明に覚えています。そして、社会人としての一歩を踏み出すことに、期待と同時に身が引き締まる思いでいっぱいです。

私は中学生の時、東日本大震災の影響で校舎を建て替えることになり、旧校舎のほかに市営体育館や仮設校舎に通っていました。体育館では木の板で仕切りを作って教室にしていたので体育の授業を行える場所はなく、仮設校舎にも体育館はなかったため、体育の授業や部活動の時は市内の施設や学校で場所を借りて活動をしていました。当時の校長先生は、仮設校舎で授業をするという案のほかに、市内の学校に生徒を振り分けてそれぞれ通ってもらうという案もあったが、多くの関係者の方が、私たちが別々に通学することに反対したため、採用されなかったと仰っていたことを覚えています。通常の中学校生活とは異なりましたが、活動場所を提供してくださった方々、ばらばらに通学することなく一緒に学校生活を送らせてくれた方々など、多くの方々の温かさを感じたと同時に、支えられていることを実感しました。

東日本大震災のときと同様に、現在、新型コロナウイルスの流行により、市民の皆様のご生活に大きな影響が出ています。上杉祭りや雪灯籠祭りの延期・中止、マスク着用や換気の徹底、不要不急の外出自粛など、これまでの日常が大きく変化しています。私自身も、コロナ禍以降の大学生活はオンラインでの講義が中心となり、直接人と関わる機会が減ったように感じました。このような状況の中ですが、今度は私が市民の皆様のご生活を支え、米沢に恩返ししていきたいと思っています。

最後になりますが、共に働く一員として私たちを迎え入れてくださったことへの感謝を胸に、米沢市の発展に貢献できるよう、精一杯仕事に取り組み、努力精進し、成長していきます。まだまだ未熟な私たちではありますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

令和三年 四月一日

新規採用職員代表 安部成美